

**平成29年度全国学力・学習状況調査
柏原市における結果の概要について**

全国学力・学習状況調査について

はじめに

柏原市教育委員会では、これまで、基本的な方針として、毎年、「学校教育基本目標ならびに重点目標」を定め、着実に取組を進めてまいり、平成26年6月に教育の大綱的な位置づけとして、「柏原市教育振興基本計画」を策定、平成29年5月には、後期計画を付記し、改訂いたしました。

しかしながら、全国学力・学習状況調査など代表的な指標をみると、依然として厳しい状況が続いております。

そこで、本市の現状と成果と課題を踏まえ、特に今後3年間に力を入れるべき学力量向上施策として、「かしわらっ子はぐくみプラン」を策定し、その代表的な指標として、「全国学力状況調査」や「全国体力・運動能力、運動習慣調査」を把握・多面的に分析し、教育施策の成果と課題を検証し、保護者や市民の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら、教育及び教育施策の改善に向けて取組みをすすめてまいりました。

柏原市教育委員会では、今後とも教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、各種事業を展開していきます。

全国学力・学習状況調査の概要(文部科学省HPより)

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年、中学校第3学年

3. 調査の内容 (問題 <http://www.nier.go.jp/17chousa/17chousa.htm>)

教科に関する調査(国語、算数・数学)

- 主として「知識」に関する問題
- 主として「活用」に関する問題
- 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査
- 児童生徒に対する調査
- 学校に対する調査

柏原市の結果からみる今後の重点課題について

【教育委員会がすべきこと】

- 「書く力」の育成をねらった取組みの推進
- 幼小中一貫教育の推進
- 家庭学習についての啓発
- スマートフォンやゲーム等に関する研修の実施

【学校がすべきこと】

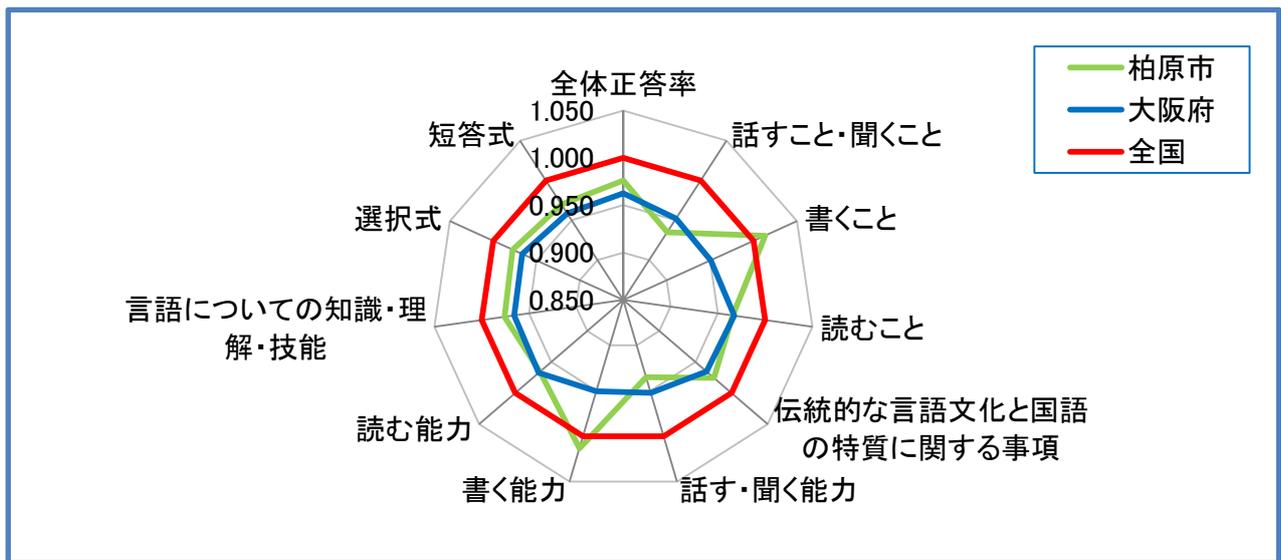
- 書く指導の推進
- 基礎基本の徹底
- 家庭学習を促す取組みの推進
- スマートフォンやゲーム等の学習活動、学力への影響についての啓発

【家庭がすべきこと】

- 基本的な生活習慣の定着
- 家庭学習習慣の定着
- スマートフォンやゲーム等についてのルール作り

【 1 】 小学校国語 A（主として「知識」に関する問題）

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			柏原市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体		15	73	72	74.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	64.7	65.9	69.2
	書くこと	2	61.4	57.6	60.6
	読むこと	3	67.8	67.9	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	76.1	75.3	78.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	1	64.7	65.9	69.2
	書く能力	2	61.4	57.6	60.6
	読む能力	3	67.8	67.9	70.2
	言語についての知識・理解・技能	11	76.1	75.3	78.0
問題形式	選択式	9	70.1	69.3	71.7
	短答式	6	77.0	76.1	79.4
	記述式	0			



※レーダーチャートは全国の平均正答率を「1」として算出した値で作成しています。

- 全問対全国比で±5%に収まっている。
- 最終問題の無答率が国=2.9%、市=2.0%である。
- △ 漢字の正答率が国=79.4、市=77.1である。

※○印：成果と考えられること

※△印：課題と考えられること

～課題のある問題～

7(1) 参加たいしょうの「たいしょう」を漢字で書く。

4年生のみなさんへ

放送委員会

委員会活動の体験のお知らせ

1 日時 2月19日(月)～2月22日(木)
10時25分から10時45分まで

2 集合場所
多目的ルーム

3 参加 たいしょう
(1) 4年生の きぼう者
(2)



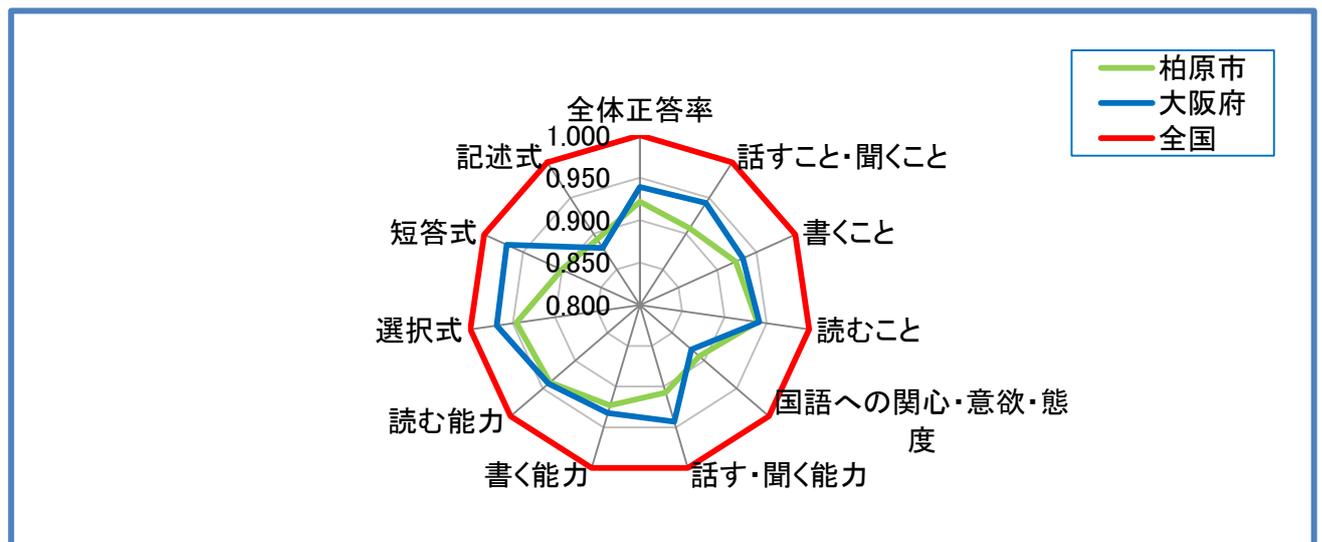
～学習指導に当たって～

★★★ 子どもが当該学年までに配当されている漢字を習得できるようにするには ★★★

漢字は、各教科等や日常生活で使用する文や文章の中で適切に使うことができるように指導することが重要である。そのためには、学習した漢字を繰り返し書いて練習することのみならず、様々な場面で、漢字のもつ意味を考えながら、実際に文や文章の中で正しく使うことができるように指導することが大切である。本問で取り上げたように、「対象」、「対照」などの同音異義語に注意して使うことができるように指導することも大切である。

【 2 】 小学校国語 B（主として「活用」に関する問題）

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			柏原市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体		9	53	54	57.5
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	58.9	61.2	64.9
	書くこと	5	49.3	49.8	53.4
	読むこと	3	46.2	46.3	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	37.2	36.7	41.7
	話す・聞く能力	3	58.9	61.2	64.9
	書く能力	5	49.3	49.8	53.4
	読む能力	3	46.2	46.3	49.2
	言語についての知識・理解・技能	0			
問題形式	選択式	5	61.1	62.6	64.6
	短答式	1	62.3	67.2	69.2
	記述式	3	37.2	36.7	41.7



※レーダーチャートは全国の平均正答率を「1」として算出した値で作成しています。

- △ 各領域まんべんなく課題がある。
- △ 最終問題の無答率が、国＝19.4%、市＝23.1%である。

※○印：成果と考えられること

※△印：課題と考えられること

～課題のある問題～

- 1 ㊦ グループの話し合いの中で、石田さんたちはスピーチメモを使うことの良さについてどのように考えているかについて書く。

～学習指導に当たって～

★★★ 目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように話す力の育成 ★★★

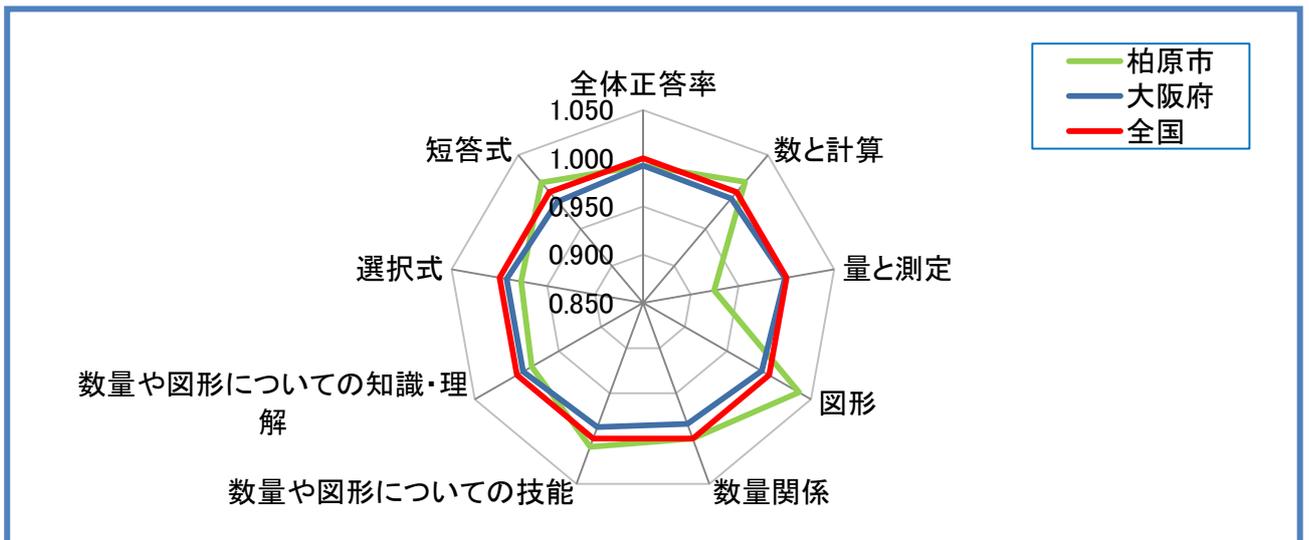
目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように話すためには、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話すことができるようにする必要がある。そこで「事実と感想、意見とを区別」する、結論付けを明確にする、声量や速度、抑揚や間の取り方を考える、改まった言葉や丁寧な言葉を考えるなど、「その場に応じた最も適切な表現」の仕方について指導することが大切である。具体的には、設問の「1 2」のように、自分や友達の発表の様子を、「振り返るための観点を明確に」して振り返る活動が有効である。また、スピーチメモを活用して話す活動も考えられる。まず、目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、「話の要点を短い言葉で順序立てて記述したメモ」を作成することができるように指導する。そして、そのメモを基に、話のまとめや順序を意識するとともに、相手の反応を見て話すことができるように指導する。その際、相手の理解をより促すために、相手の反応に応じて思考を働かせながら話すことができるように指導することが大切である。

★★★ 目的や意図に応じて、文章の構成を考えて書く力の育成 ★★★

自分の考えを相手に伝えるためには、「目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考えて書く」ことが重要である。文章の種類や特徴を踏まえた上で、自分の考え及び相手の理解が明確になるように、文章の構成を工夫する必要がある。その際、それぞれの段落の内容としてどのようなことを書けばよいかを考えたり、自分の考えを一貫して述べたりすることができるように指導することが大切である。また、常に読み手を意識し、「書き方を工夫」することができるように指導することも大切である。

【 3 】 小学校算数A（主として「知識」に関する問題）

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			柏原市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体		15	78	78	78.6
学習指導要領の領域	数と計算	8	81.7	79.9	80.6
	量と測定	2	63.6	68.7	68.8
	図形	2	84.0	80.4	81.1
	数量関係	5	79.6	78.3	79.6
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての技能	8	78.4	76.7	77.7
	数量や図形についての知識・理解	7	78.3	79.1	79.7
問題形式	選択式	7	77.8	79.0	79.6
	短答式	8	78.8	76.8	77.8
	記述式	0			



※レーダーチャートは全国の平均正答率を「1」として算出した値で作成しています。

- 基礎的な計算の力はついている。
- 最終問題の無答率が、国＝5.1%、市＝3.1%である。平成26年度からみると、初めて国の無答率を下回った。
- △ 量と測定の領域が不十分である。

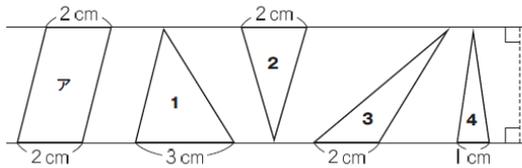
※○印：成果と考えられること
 ※△印：課題と考えられること

～課題のある問題～

- ⑤ 示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ。
 （正答率：国＝67.0%、市＝61.3%）（無答率：国＝1.3%、市＝1.2%）

5

平行な2本の直線を使って、平行四辺形や三角形をかきました。
下の1から4までの三角形の中で、平行四辺形アの面積の、半分の面積であるものはどれですか。すべて選んで、その番号を書きましょう。



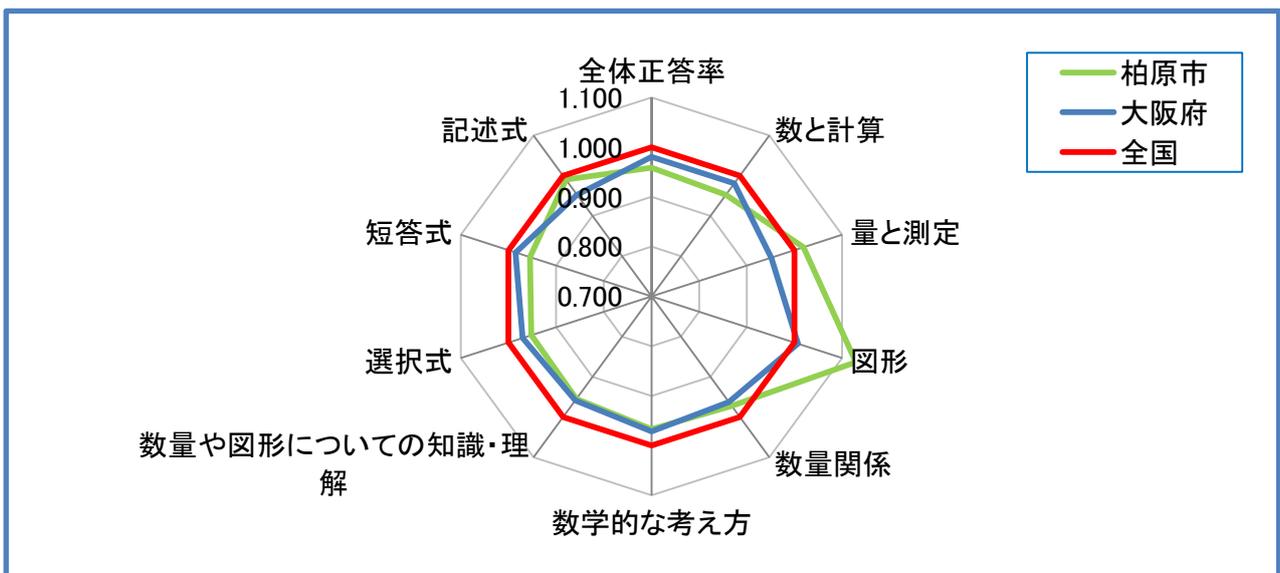
～学習指導に当たって～

★★★ 平行四辺形と三角形の面積を図形の性質とともに理解する力の育成 ★★★

底辺の長さが高さがそれぞれ等しい平行四辺形と三角形においては、図形の向きや形に依存せずに、三角形の面積は平行四辺形の面積の半分であるという面積の意味理解をすることが大切である。指導に当たっては、二つの合同な三角形を合成してできた平行四辺形の面積を求めたり、平行四辺形を対角線で分割してできた二つの合同な三角形の面積を求めたりする活動が考えられる。その際、平行四辺形の面積を求める公式と三角形の面積を求める公式を比較し、その面積の関係を捉えることが大切である。

【 4 】 小学校算数B（主として「活用」に関する問題）

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			柏原市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体		11	44	45	45.9
学習指導要領の領域	数と計算	5	50.3	51.8	52.8
	量と測定	2	47.9	44.7	47.0
	図形	1	14.9	13.3	13.2
	数量関係	8	38.9	38.5	40.0
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	9	43.9	44.1	45.4
	数量や図形についての技能	0			
	数量や図形についての知識・理解	2	46.4	46.6	48.6
問題形式	選択式	3	51.5	52.5	54.1
	短答式	3	58.9	60.8	61.7
	記述式	5	31.3	30.1	31.6



※レーダーチャートは全国の平均正答率を「1」として算出した値で作成しています。

- 基礎的な計算の力はついている。
- 最終問題の無答率が、国＝8.7%、市＝7.7%である。
- △ 「記述式」の方が「選択式」よりも無答率が高い。

※○印：成果と考えられること

※△印：課題と考えられること

～課題のある問題～

1 (1) カードの差が4の場合の、2けたのひき算の式と答えを書く。

(正答率：国＝69.5%、市＝76.0%) (無答率：国＝2.0%、市＝4.3%)

1

1から9までの数が書かれたカードが1枚ずつあります。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

この中から2枚のカードを選んで、次のような2けたのひき算の答えについて考えます。

カードを使った2けたのひき算

選んだ2枚のカードを並べて、2けたの整数を2つ作り、大きい数から小さい数をひきます。

例えば、1と9を選んだ場合、19と並べると19がつくれます。91と並べると91がつくれます。

2けたのひき算の式 $91 - 19$

2けたのひき算の答え 72

選んだ2枚のカードに書かれた数どうしの差を、「カードの差」と呼ぶことにします。例えば、1と9の2枚のカードの差は8です。

～学習指導に当たって～

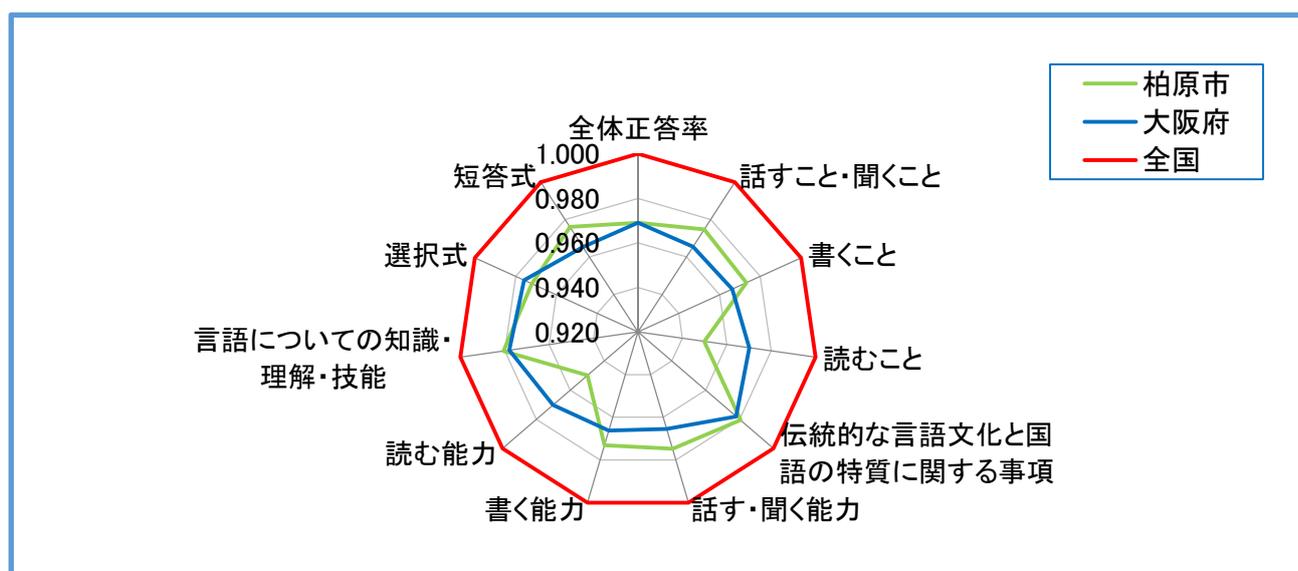
★★★ 情報の中から条件に合うものを

選択する力の育成 ★★★

日常生活の問題を解決する場面では、様々な情報の中から必要な情報を収集した上で、条件に合うものを選択することが必要になる。児童自らがどのように考えて選択したかを説明できるようにすることが大切である。

【 5 】 中学校国語 A（主として「知識」に関する問題）

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			柏原市	大阪府(公立)	全国(公立)
	全体	32	75	75	77.4
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	73.5	72.8	75.4
	書くこと	4	83.4	82.8	85.7
	読むこと	6	70.1	71.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	75.7	75.5	77.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	73.5	72.8	75.4
	書く能力	4	83.4	82.8	85.7
	読む能力	6	70.1	71.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	18	75.7	75.5	77.2
問題形式	選択式	22	76.3	76.6	78.5
	短答式	10	73.3	72.5	75.1
	記述式	0			



※レーダーチャートは全国の平均正答率を「1」として算出した数値で作成しています。

○最終問題の無答率が国＝1.3%、市＝0.7%である。

※○印：成果と考えられること

～課題のある問題～

- 8二 二人の交流の様子について説明したものとして適切なものを選択する。
(正答率：国＝72.3%、市＝65.6%)

⑧ 次は、「静」とその時についての「静謐の交流の二部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【静】

祖母
祖母は髪をかきあげて
桃の姿のように合せた髪の中から
沢山金髪をくれるのだ

三好達治

【静謐の交流の二部】

本村
この時に出てくる祖母は、優しい感じがするね。

石川
そうだね。「沢山を」と「くれるのだ」という表現から、
孫を思う優しさが伝わってくるね。本村さんは、どの表現
から優しいと感じたのかを。

本村
「桃の姿のように合せた髪」という比喩を用いた表現か
ら、大事に包み込むようにしてそっと孫に髪す様子が見
わかってきて、優しいと感じたよ。

9-2 漢字を書く。(雨で運動会がエンキになる)

(正答率：国=62.3%、市=56.7%)

9六1 楷書と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する。

(正答率：国=49.6%、市=43.6%)

～学習指導に当たって～

★★★ 子どもが文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをもつためには ★★

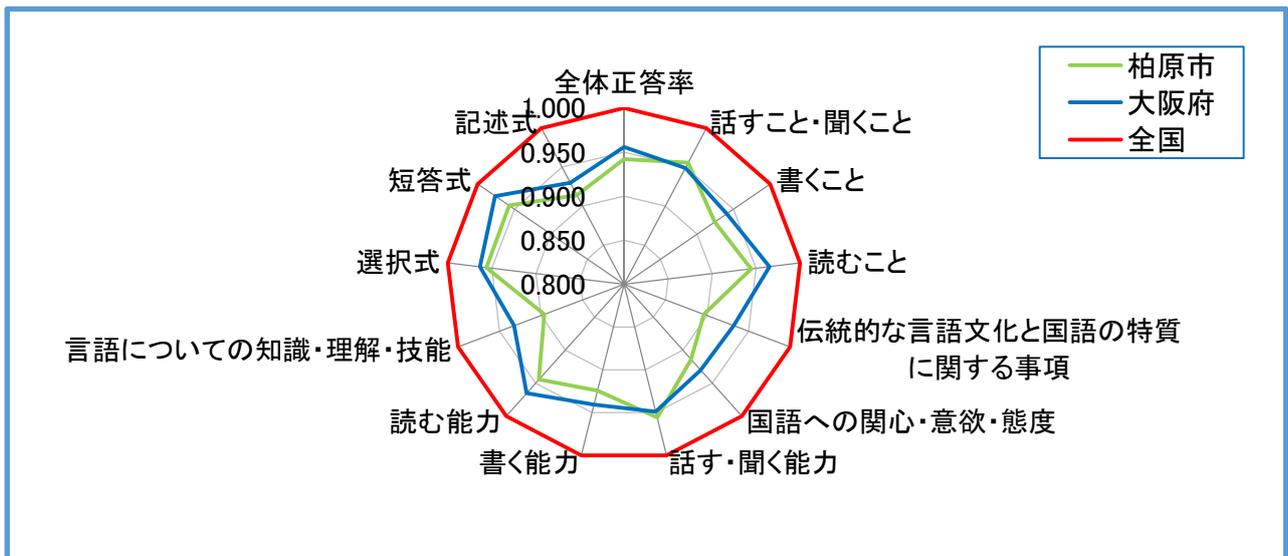
文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる際には、**自分の考えを支える根拠**となる段落や部分などを挙げるようにすることが大切である。また、そのような表現をした**書き手の意図**との関連を考えたり、その効果について考えたりすることも重要である。例えば、文章の構成や展開、表現の仕方についての自分の考えと、他の人の考えとを比べることを通して、自分の考えを深める学習活動が考えられる。このような学習活動を授業の中に取り入れることが重要である。

★★★ 書き手のものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げる力の育成 ★★★

文学的な文章を読む際には、書き手のものの見方や考え方に共感したり、疑問をもったりすることなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、**様々な視点から物事について考えられるよう**になったりするなど、読み手としてのものの見方や考え方を更に広げていくことが大切である。例えば、詩歌などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流する学習活動が考えられる。その際、感想の相違のみならず、その**根拠**として取り上げている表現が異なる場合があることを指導するなど、自分の考えを広げたり深めたりしていくための交流の視点を示すことが重要である。

【 6 】 中学校国語 B（主として「活用」に関する問題）

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			柏原市	大阪府(公立)	全国(公立)
	全体	9	68	69	72.2
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	69.2	68.7	72.4
	書くこと	4	56.2	57.2	60.8
	読むこと	4	68.1	69.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	37.1	38.6	41.4
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	51.1	52.0	55.9
	話す・聞く能力	3	69.2	68.7	72.4
	書く能力	4	56.2	57.2	60.8
	読む能力	4	68.1	69.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	1	37.1	38.6	41.4
問題形式	選択式	5	76.1	76.7	79.6
	短答式	1	80.5	82.1	84.1
	記述式	3	51.1	52.0	55.9



※レーダーチャートは全国の平均正答率を「1」として算出した数値で作成しています。

- △ 各領域、万遍無く課題がある。
- △ 記述式の無答が目立つ。

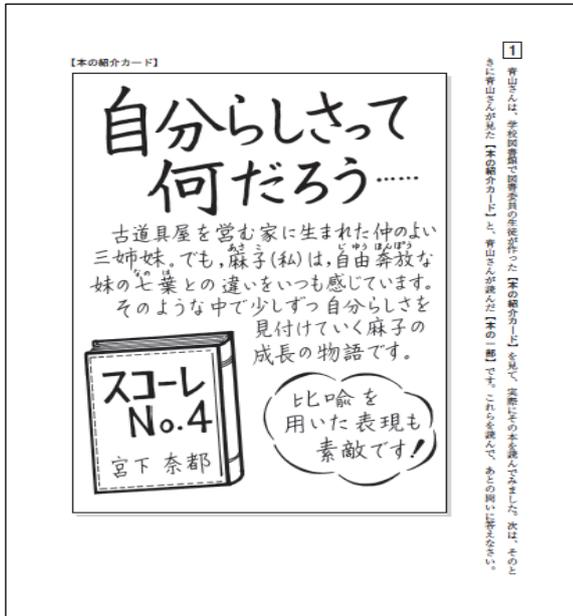
※○印：成果と考えられること

※△印：課題と考えられること

～課題のある問題～

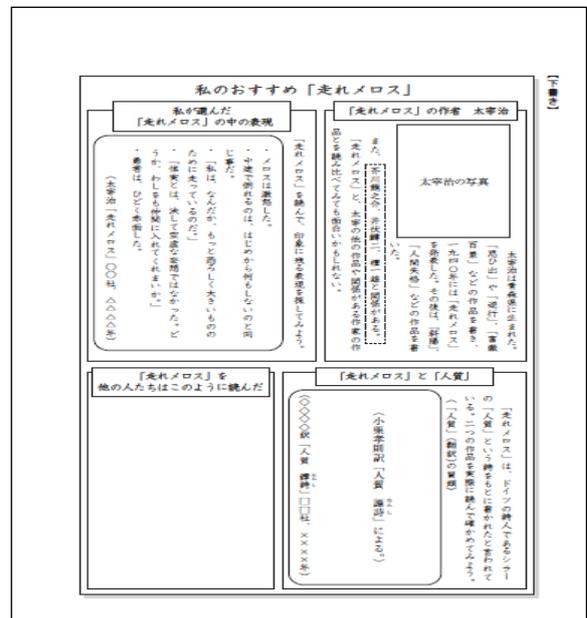
1-1 本の紹介カードに書かれている登場人物の様子が具体的に表現されている箇所として適切なものを選択する。

(正答率：国＝84.1%、市＝78.8%)



3-3 アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容を書けることで興味を持ってもらえると考えた理由を書く。

(正答率：国＝68.8%、市＝62.6%) (無答率：国＝7.4%、市＝9.5%)



～学習指導に当たって～

★★★ 集めた材料を整理して文章を構成する力の育成 ★★★

目的に応じて集めた材料を分類するなどして整理することは、文章の構成を考える上でも効果的である。書く目的や意図に応じて集めた材料を取捨選択したり、関連を考えて分類したり、時間的な推移や因果関係などに基づいて整理したりすることにより、書こうとする事柄のまとまりや順序が明確になる。その上で、段落の役割などを考えて文章を構成することが大切である。指導に当たっては、これまでの学習を踏まえた上で、段落の役割などに注意して文章を構成したり、項目を立ててまとめたりする学習活動が考えられる。その際、文章全体を通して伝えたい事柄や意見などが読み手に伝わるようになっているかどうかについて確かめることが重要である。

★★★ 複数の資料から必要な情報を読み取り、関連付ける力の育成 ★★★

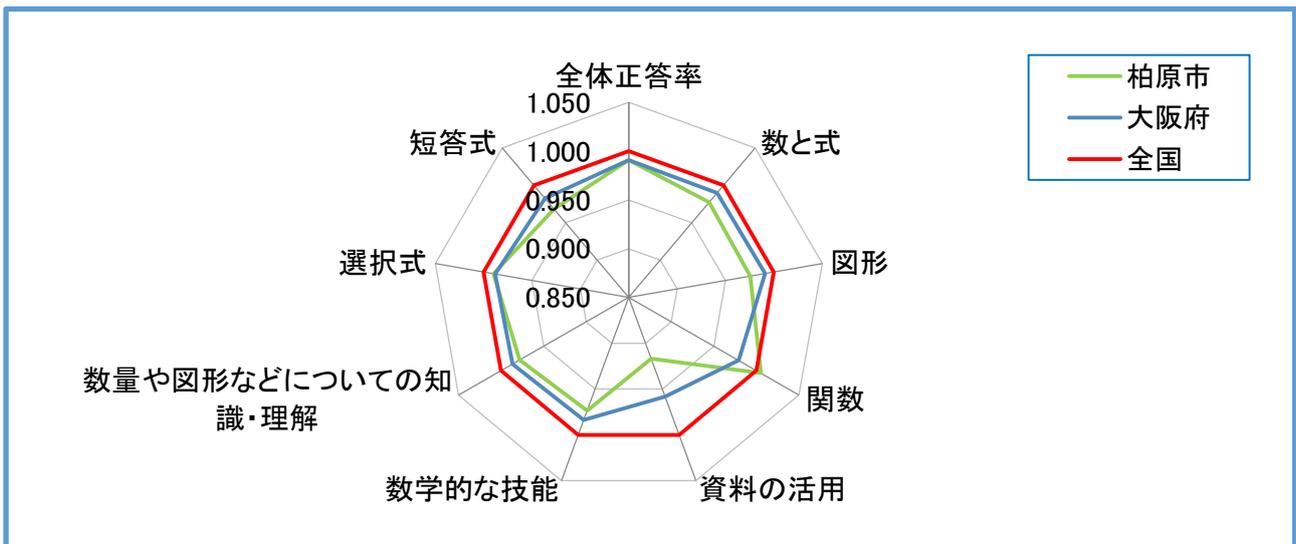
事実や事柄など伝えたいことを明確にして示すためには、資料から正確に情報を読み取り、適切に活用する必要がある。一つの資料からの情報だけでは不十分な場合には、複数の資料から得た情報を関連付けて示すことも必要になる。例えば、得た情報の中から何をどのように引用すればよいのかを判断したり、情報と情報の関連を考え、**再構成**して示したりする学習活動が考えられる。その際、情報が、目的に応じた示し方になっているかどうかなどについて確認するように指導することが大切である。

★★★ 見通しをもって必要な情報を集める力の育成 ★★★

日常生活や社会生活の中から課題を決め、必要な情報を集めながら自分の考えをまとめる際には、誰に、何のために書くのかなど、**目的や意図を明確に**しておく必要がある。情報を集める際は、パンフレットやリーフレット、雑誌、新聞を利用したり、関係する人々にインタビューやアンケートを行ったりするなど、適切な方法を選択するように指導することが大切である。その際、集める情報の内容や整理の仕方だけでなく、その情報を示すことによって、どのような**効果**が期待できるのかなどについても見通しをもって行うことが大切である。

【 7 】 中学校数学 A（主として「知識」に関する問題）

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			柏原市	大阪府(公立)	全国(公立)
	全体	36	63	64	64.6
学習指導要領の領域	数と式	12	68.8	69.7	70.4
	図形	12	64.4	65.4	66.0
	関数	8	57.7	56.2	57.4
	資料の活用	4	52.8	55.2	57.6
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な技能	20	66.4	67.1	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	16	58.9	59.4	60.2
問題形式	選択式	13	66.1	66.0	66.8
	短答式	23	61.4	62.3	63.4
	記述式	0			



※レーダーチャートは全国の平均正答率を「1」として算出した数値で作成しています。

- 関数領域は良好である。
- 最終問題の無答率が全国と同じである。(7.9%)
- △ 資料の活用、図形領域に課題がある。

※○印：成果と考えられること

※△印：課題と考えられること

～課題のある問題～

14 (1) 反復横跳びの記録の範囲を求める。

(正答率：国＝28.6%、市＝15.5%) (無答率：国＝9.6%、市＝10.6%)

14 (2) 6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める。
 (正答率：国=45.5%、市=38.3%)(無答率：国=15.0%、市=15.2%)

14 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 次の記録は、ある中学校の生徒7人が反復横とびを20秒間行ったときの結果を、回数が少ない方から順に並べたものです。

記録

40	46	47	48	53	53	56
----	----	----	----	----	----	----

(単位：回)

反復横とびの記録の範囲を求めなさい。

(2) ある市の平成28年6月1日から30日までに、日ごとの最高気温の記録を調べました。下の度数分布表は、その結果をまとめたものです。

日ごとの最高気温

階級(℃)	度数(日)
以上	未満
22～24	3
24～26	8
26～28	7
28～30	6
30～32	5
32～34	1
合計	30

22℃以上24℃未満の階級の相対度数を求めなさい。

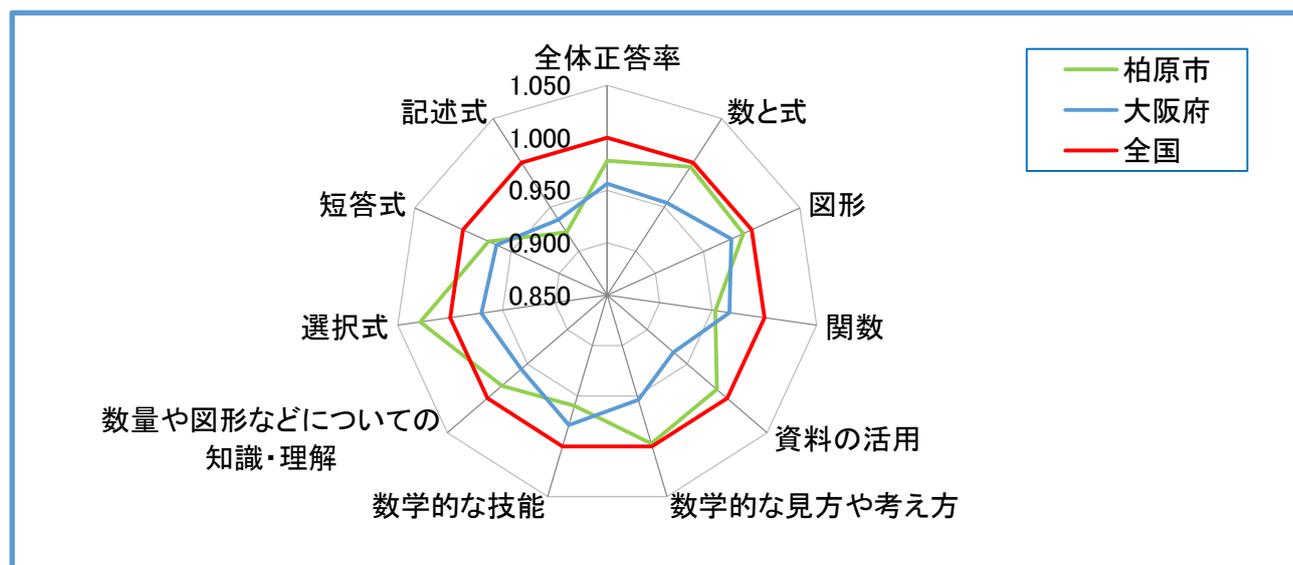
～学習指導に当たって～

★★★ 「範囲」「相対度数」などの数学的表現の意味を理解する力の育成 ★★★

範囲の「意味を理解」できるようにするために、範囲とは、資料の最大値と最小値との差であることを確認した上で、資料の散らばりの程度を捉える活動を取り入れることが考えられる。相対度数の「必要性和意味について理解」できるようにするために、ある階級の度数の総度数に占める割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を取り入れることが考えられる。数学的な表現の意味を正しく理解し、説明などの中で使えるようにすることが大切である。

【 8 】 中学校数学 B（主として「活用」に関する問題）

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			柏原市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体		15	45	46	48.1
学習指導要領の領域	数と式	3	44.0	44.2	46.3
	図形	6	45.7	46.1	47.1
	関数	3	46.8	49.1	50.8
	資料の活用	3	45.2	45.8	49.1
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	10	35.0	35.1	36.8
	数学的な技能	3	57.5	59.9	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	2	80.0	81.5	85.1
問題形式	選択式	4	53.7	52.2	53.8
	短答式	6	62.3	64.0	66.3
	記述式	5	18.7	20.3	21.7



※レーダーチャートは全国の平均正答率を「1」として算出した数値で作成しています。

- △ 資料の活用、図形領域に課題がある。
- △ 説明を求める問題の無答率が高い。
- △ 最終問題の無答率が高い。(国=31.2%、市=34.8%)

※△印：課題と考えられること

～課題のある問題～

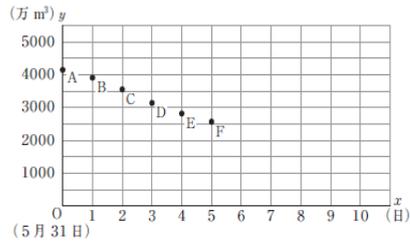
3(3) 与えられた式から、 a の変域に対応する b の変域を求める。

(正答率：国=43.2%、市=36.8%) (無答率：国=17.5%、市=19.2%)

3 康平さんは、ダム貯水量が減ってきており、水不足の心配があることを新聞で知りました。そこで、新聞に載っていたダムについて、毎日の同時刻の貯水量を調べました。そして、5月31日から x 日後のダム貯水量を y 万 m^3 として、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。

調べた結果

5月31日から経過した日数と貯水量						
経過した日数 x (日)	0	1	2	3	4	5
貯水量 y (万 m^3)	4140	3920	3540	3140	2820	2570



～学習指導に当たって～

★★★ 数学的な結果を事象に即して解釈する

力の育成 ★★★

数学的な結果を事象に即して解釈できるようにするために、問題解決において用いた式を「事象に即して捉え直す」活動を取り入れることが考えられる。

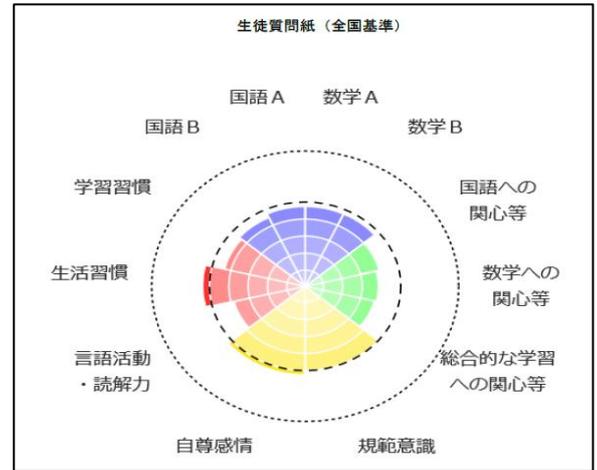
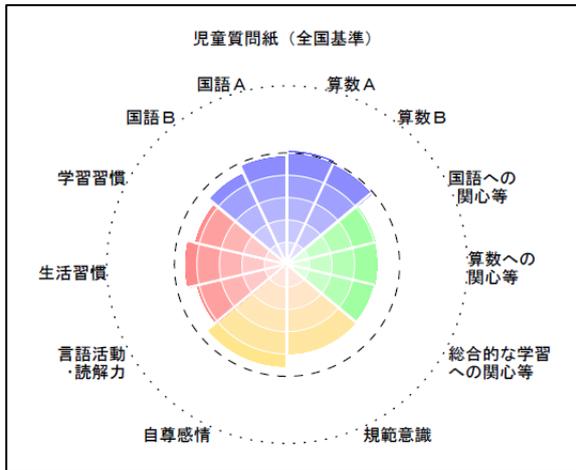
★★★ 実生活における問題の解決に数学を活用する

力の育成 ★★★

実生活における問題を数学を活用して解決できるようにするために、「具体的な場面」において、事象を理想化・単純化して数学の問題として捉え、解決する場面を設定することが考えられる。さらに、その解決の過程や結果を振り返り、新たな問題を見だし、解決する場面を設定することも考えられる。

【 9 】 質問紙調査のクロス分析（文部科学省報告書より）

※全国平均は破線部分、柏原市平均は色つきの部分



☆ 以下と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

① 円滑なコミュニケーションのある授業

- ・友達の前で自分の考えや意見を**発表する**ことが得意である。
- ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで**聞く**ことができる。
- ・友達と話し合うとき、友達の**考えを受け止めて**、自分の考えを持つことができる。
- ・自分の考えを**発表する**機会が与えられていたと思う。
- ・学級の友達と〔生徒〕の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで**聞き**、自分の考えをしっかりと**伝えて**いたと思う。
- ・全学年までに受けた授業では、学級の友達と〔生徒〕の間で**話し合う**活動をよく行っていたと思う。
- ・学級の友達と〔生徒〕の間で話し合う活動を通じて、**自分の考えを深めたり、広げたり**することができていると思う。

② 子どもが主体的に活躍する授業

- ・先生から示される課題や学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、**自ら考え**、自分から進んで取り組んでいたと思う。
- ・学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、**話し合い**ながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。

③ 効果的に「書く」「話す」力を高める場面のある授業

- 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。
- 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思わない。
- 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思わない。
- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。
- 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組立てを工夫している。
- 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている。
- 授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている。

④ 自己有用感を高める支援

- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。

【 10 】 柏原市としての今後の取組み

- 引き続き「書く力の育成」にスポットを当てて学力向上推進に取り組む。
- 各校の校内研究推進に以下の『【11】学校における今後の取組み』に記す「書く」活動の中で留意することを含んだ指導助言を行う。
- 幼小中一貫教育をより一層推進し、連続性のある学びを追究する。
- 家庭学習習慣の定着についての啓発を行う。
- スマートフォンやゲーム等、メディアについての研修を行う。

【 11 】 学校における今後の取組み

～ 国語 ～

課題となっている「書く」活動の中で留意すること

取材
構成

- 材料を分類して整理する。
- 目的や意図に応じて文章全体の構成を考える。
- 要点を短い言葉で順序立てて構成を考える。

記述

- 読み手を意識して書く。(⇔書き手を意識して読む)
- 習った漢字は使う。
- 事実、感想、意見を区別して書く。
- 自分の考えを支える根拠を明確にする。
- 冒頭部や終結部の書き方を工夫する。
- 場に応じた最適な表現をする。
- 効果を考えて書く。

推敲

- 振り返る観点を明確にする。
- 書いた文章を再構成する。

学校は、以上の留意することを踏まえ、教科横断的に「書く機会」を多く設け、組織的に「書く活動」の充実を図る。

～ 算数・数学 ～

これからの算数・数学の授業づくり

- 公式の暗記、公式の意味理解の両方とも大切にする。
 - ・・・繰り返し練習する習得の時間と公式の意味を考える時間のメリハリをつける。
- 考えを数学的表現を用いて説明する活動を取り入れる。
 - ・・・数学的表現も正しく理解して使えるようにする。
- 具体的な生活場面とつなげて考えることも取り入れる。
 - ・・・時には生活場面と算数・数学とのつながりについて

小学校算数 平成29年度 全国学力・学習状況調査 算数B4

学習指導に当たって

○測定値の平均を工夫して求めるよさを実感できるようにする。

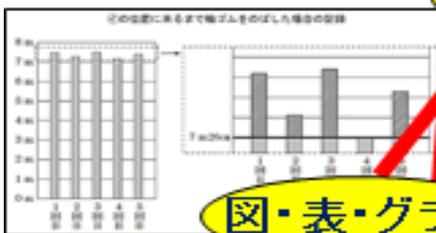
なぜ、7 m20cmをこえた部分の平均を求めたのですか。

5回の記録のうち、最も短い距離の7 m20cmを基準にすると、平均を求めるときの式の中の数を小さくすることができるからです。



工夫して平均を求めよう

回数	歩かぬだけより
1	7 m 52 cm
2	7 m 31 cm
3	7 m 54 cm



問題場面

図・表・グラフ

式

$$(31 + 11 + 34 + 0 + 23) \div 5 = 20$$

大阪府教育センターの研修より

学校は、以上のような算数・数学の授業づくりを組織的に推進する。

【 1 2 】 家庭における今後の取組み

- 早寝早起き、朝ごはんを食べるなどの基本的な生活習慣の定着。
- 発達段階に応じた家庭学習習慣の定着。
- スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り。

【早寝早起き、朝ごはんを食べるなどの基本的な生活習慣の定着】

- 規則正しい時間に寝て起きるリズムを意図的につくる。
- 体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう睡眠時間は平均8時間以上とるように促す。
- 毎朝ごはんを食べるように促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる。

【発達段階に応じた家庭学習習慣の定着】

- 発達段階に応じて家庭学習時間のめやすを決める。

《参考例》

＜小学校＞

低学年・・・30分
中学年・・・45分
高学年・・・60分

＜中学校＞

1・2年生・・・120分
3年生・・・・・・150分

【スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り】

- テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について、家庭内でルールを決める。特に使い方を誤るとトラブルのもとになるSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等の利用については、家庭内でしっかりと約束事を決めておく。